

十一月 月例集会

今ほどは、国際的な大会に優勝した杉本君をはじめ、本校生徒の活躍を披露できたことを大変にうれしく思います。日頃の練習の中で努力し、困難を克服してきた成果であると思っています。

さて、十月は合唱コンクールを目標とし、クラス一丸となって取り組んだ月でした。みんなで創り上げた素晴らしいコンクールとなりました。

講評でも述べたとおり、きっと、今までと違う自分や友達、クラスを感じた貴重な一ヶ月であったと思います。

文化祭終了後にとった生徒アンケートでは、活動を通して、失敗を恐れず挑戦し、最後までやり遂げたと感じた生徒が94%、友達が自分の良さを認めてくれたと感じた生徒が90%近くいました。自分自身の良さを感じた生徒も70%以上いました。

当日だけでなく、そこまでの取り組み、「互いに認め合い」「高め合った」活動がいかに素晴らしかったかを物語っています。

令和元年度（平成では三十一年度）も体育祭、文化祭を終え、2/3を終えようとしている今、これまでを振り返り、それぞれに、これからの自分の目標を定めて欲しいと思います。

今日は、これまでの成果をつなげて欲しい「次の目標」の前提となる、進路と学習について話したいと思います。

先日来、三年生は進路実現に向け、高校説明会や進路説明会を行っています。高等学校の校長先生が、本校を訪れることも今後増えると思います。

一、二年生には、まだ先のことに感じるかもしれませんが、すでにその準備を授業では行っています。例えば、一年生の「身近な職業人から学ぶ」機会や、二年生の「わく・ワーク体験」、「上級学校を知る」調べ学習等、です。

「進路」（この先の進む路）を考えたとき、中学校は義務教育の最後の三年間です。最初に自分自身で選択し、決める節目が、この中学校です。

皆さんのお父さん、お母さん、そして、先輩も、その節目を経て、今があります。なので、不安に思う必要はありませんが、その節目に向かって、今、やるべきことは、絶対にあります。

先日、PTA会長の吉光さんに、ご講演をいただきましたが、「職業人（社会人）となる前に、中学校で行っておくべきこと」について、お話をお願いしました。「失敗から学ぶこと」そして、「成功のポイントとして「背伸びし続けること」のお話を聞きました。

「中学時代にやるべきこと」としての「失敗から学ぶこと」や「背伸びし続けること」は、目標を持ち、自分自身に「挑戦」することと、言い換えることができます。そう言えば、入学式における吉光会長さんからの祝辞には、「成功の反対は失敗ではなく、挑戦しないこと、何もしないこと」とのお話もありました。

「自分自身の進路選択」を考えると、今「なぜ学ぶのか」の答えや、「今、何をすべきか」の答えが見つけられる、人であってほしいと思います。学ぶことの意味は、決して「好き・嫌い」や「できる・できない」に左右されないことです。

確かに人には、「好き嫌い」や「得意不得意」はありますが、先に述べた、大きな行事を学年、学級で乗り越え、成長した皆さんであるからこそ、全校あげて「学ぶ」ことに向かって、普段の学習の中で、まずは学習環境を協力し作り出すことから始めて欲しいと思っています。

校訓「和して学ばん」を、実践できる寺井中学校に、全校あげて取組まなければならない時であることを伝え、十一月月例集会のお話とします。